

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町2-4-18 FAX0282-22-3757

代表：齋藤昭俊

電話連絡先0282-22-7079(増田)

Eメール ohirasanroku9jo@yahoo.co.jp

HP：太平山麓九条の会で検索



131号

2018年3月29日発行



アベ政治を許さない！

3月19日 抗議のスタンディング



財務省が、学校法人「森友学園」との国有地取引をめぐる決済文書を改ざんした事実、怒りの意思を示そうと、栃木イオン・カワチ薬品前に約30名が集まり、抗議のスタンディングをいたしました。国会提出資料の改ざんは、国権の最高機関である国会と主権者である国民を愚ろすものです。真実の解明を求めます。

森友問題を巡る問題は、これからどのような展開を見せてくれるのか？国の中枢機関でこんな問題の為に多額の税金が使われ、「言った、言わない」「知らぬ存ぜぬ」を決め込み、ちぐはぐな答弁の繰り返し。改ざんが必要だったということは都合の悪い事があり、誰かが嘘をついていることは明白。「常識が壊された」と言って亡くなった財務省の方は常識を持っていたが故に追い詰められてしまった。政治家・国家公務員という立場の前に、常識あるひとりの人間として恥ずかしくない対応を見せて欲しい。(宗像 聡美記)

抗議行動に参加して・・・

「行動を起こそう」

プラカードを掲げて毎朝散歩

田上 中

日本は87年前に、満州事変を起し、日本軍が中国へ侵攻した。この日中15年戦争が私の幼少期と重なっている。日本が敗戦、降伏した時に、私は家族と中国東北部(満州)長春にいた。その地に敗戦国民として残留していた期間に、中学3年の多感な少年だった私は、日本が中国人に犯した罪過を深く覚った。軍国主義教育によって国家主義に洗脳されていたことを知り、国家に騙されていたことを痛感した。大多数の国民が無自覚に戦争に加担し国家によって踊らされたことも。

80年前、国民の無自覚性が、日本を戦争に巻き込んだのだ。それと同じように、アベ政治がつくる日本の未来、戦争へと暴走する危機に、現在の国民が気づかず、無自覚でいては大変なことになる。

しかし、現在の日本人はあの無自覚な体質を反省することなく継承しているのではないだろうかと思う。かつての敗戦の罪過を反省して先人が生み出したのが日本国憲法だ。その憲法を無視し、踏みこじって開き直っている「アベ自民党」が、選挙で多数議席を確保してしま

見ても平然としている。よく言われるが、この人たちは「今だけ、金だけ、自分だけ」のように思えてならない。

た。そんな危険な状況です。

そのために私たちはどうすればよいのだろうか。日本の次代を作る若い世代に、学生に、政治に関心を持ってもらう。この危機的状況を伝える。話し合うことをしたいと思う。できる限り、思いっく限り、様々の手を尽くして、若い人が自覚して立ち上がるように、行動しようではありませんか

スタンディング

4月 9日(月)
栃木市役所前
4月19日(木)
コープ栃木店前

※4月から時間は午後4時からです。



東日本大震災と人口減少社会での地域の生き残り

大塚 育子



7年目の3・11が巡ってきた。当時、私は仙台在住だったが住居の被害は小さかった。しかし揺れの後、市内全域が停電で水道もガスも出なかった。低く垂れこめた空からは雪が舞ってきてひどく寒かった。中心部では津波のことは全く分からなかった。関東の人たちの方がリアルタイムで、襲いかかる津波のTV映像を見ていたと思う。夜になって、ラジオで津波により大変な事態が起きていることを知るが、イメージは湧かなかった。

地震・津波の被害のあと、福島第一原発の爆発が追い打ちをかけた。3・11によって日本は根元から変わらざるをえないといわれたが、現在の日本の状況はどうだろうか。

2015年に栃木に戻った前、三陸を巡った。田中角栄の「列島改造」の言葉が思い浮かぶような、巨大な大地のほっこり返しはどこでも進んでいった。こんなことで復興がなるのか・・・私の中で疑問符は大きくなっていった。

そして昨日見てきた、南三陸町波伝谷地区を撮ったドキュメンタリー映画。80軒あった部落の家屋で残ったのはたった一軒、あとはすべて流された。16名が波にさらわれ亡くなった。いまは高台造成が終わって、新しく移転できた家は元の半数の40軒ということだ。福島だけでなく、故郷に戻れない人達は多いのだ。

集落として成り立つか、コミュニティ作りが課題であるのは被災地だけでなく、今や人口減少の進む地方全体の問題となっている。自立を奪われ、中央に依存せざるを得ない地方という明治期の近代化の中でつくられてきた構造を変えていかねば生き残れない。エネルギー源、生産と消費が地域のなかでまわっていく姿を思い浮かべてみよう。そこでは自立した生活の一部として政治もある。「改憲阻止」3000万署名がオープンに論じられるような隣近所の関係がつけられること。そんな関係性をつくっていく必要がある。

わたしの おすすめ絵本

白澤真喜子

「おかあさんのいのち」

武藤悦子・さく 江藤路子・え 岩崎書店

書店にて「戦後・70年平和への願いを込めて、おくる歌」とカバーに書いてある言葉が目にとまりました。早速ページを開いて見ました。柔らかいタッチで、おかあさんになった喜びや、子どもの成長を見守り、やがて大人になっていく子に、平和の願いを愛情深く伝えていく絵本でも感動しました。

私はおばあちゃんですが、いつの時代でも、命を生みだす母親として、命を守り育てていきたいものです。そして、二度と戦争をおこさないためにも、伝えていきたい本です。

— 絵本の一部を紹介します。 —

わたしは	あかちゃん
あなたが	うまれて
わたしは	おかあさんになった
なんて	ちいさいて
なんて	ちいさいあし
わたしが	まもってあげなければ・・・
このちいさい	あかちゃんがすくすくと
たくましいわかもものになるまで	- (略) -
このかわいいても	いつか おかあさんの
てを	つつみこむほど
つよく	大きくなるでしょう。
そのてが	どうか 銃など
にぎりませんように・・・	

